

甲機

海軍功績調査部長殿
四根機務第三號ノ二

昭和三十八年九月一日
至昭和十八年九月三十日

第四根據地隊司令部
第二海上護衛隊司令部

戦時日誌

聯合艦隊第四艦隊
第四根據地隊司令部
第二海上護衛隊司令部

十月十日



1810

目次

- 一 経過
- 二 人員ノ現状
- 三 令達報告
- 四 参考
- 五 作戦経過概要

(終)

1811

自昭和十八年九月一日
至昭和十八年九月三十日

第四根據地隊
第三海軍護衛隊

戰時日誌

1812

一、經過
の一般情勢

南方第一線ニ於ル戰鬥ハ日ニ熾烈ヲ加ヘ敵ハ極メテ優勢ナル
航空兵力ヲ以テ我が基地及第一線陣地ヲ攻撃スルト共ニ
輸送船團ニ對シ執拗ナル攻撃ヲ反復シ我が補給路
ヲ先ズ遮断シ次デ有力ナル艦隊掩護ノ下ニ輸送船團
ヲ以テ遂次我ヲ占領下ノ地域ニ陸ヲ敢行シ来ルハ彼ノ常
套手段ニシテ味方航空部隊海上部隊共實カ兵ヲ以テ之
大打撃ヲ加ヘツツアルモ戰況ハ日ニ逼迫ヲ加ヘツツアリ
同時ニ太平洋ノ全域ニ亘リ多數ノ潜水艦ヲ配シ我ノ
補給路ヲ攪乱シ全カヲ傾注シツツアリ

而シテ中甸突如アバヤルレバト方面ニ現レタル敵機動力
部隊ハ我ノ手ヲ導ニ乘ジ反西復銃爆撃ヲ加ヘ相當

損害ヲ出セリ

斯ノ如ク敵ノ總反攻益々激烈ヲ加ヘツツアル秋當隊トシテハ第
一線補給増強ノ重要性ニ鑑ミ不足セル兵力ヲ以テ海上
護衛ノ完遂ニ全力ヲ盡スト共ニ精立懸レテ嫌アルガリン
方面特ニトククリノ防備促進ニ努力メツツアリ

敵軍ノ情勢

敵者、跳梁益々甚シキヲ加ヘ四根擔任警備区域ニ出現セル
モノ(含通信情報)及第一海上護衛隊艦艇ノ遭遇セ
ル敵潜水艇延ハ六隻之ニ依ル味方船舶ノ被害ハ隻
内四隻沈没シ又敵者、擊沈確海員ナルモノニ隻ヲ算ス
一敵者出發情況別表ノ通り、
一方敵航空機ハ南方ニ於テ敵基地ノ前進ト相待ツテ

1815

次第ニ積極的トナリ連日ブクリニケレニB二十四型ノ未龍表
 スルアリ又トビスアークレ群島北方海面迄相當有力ナル航
 空兵力進出シ我輸送船國ヲ脅威スルアリ又マールセル
 ヲルトハトシ方面ニ對スル敵機動部隊ノ未龍表等ヨリ考
 慮シ當方面ニ對スル敵機動部隊或ハ長距離爆撃
 機ノ未龍表ハ決テ不可能事ニハ非ズテ今ニテ之ニ對ス
 ル諸準備ヲ完成シ置カザルニ百年ノ海ヲ残ストク瞭ヲナリ

任務、編制、配備
 第一四根據地隊

機密カリシ方面防備部隊命令作第二十二號乃至第二
 十五號及機密カリシ方面防備部隊作第七號乃至
 第九號ノ通

第二海上護衛隊
 機密第二海上護衛隊命令作第一號ノ通

二 作戰指導

敵航空機ニ對シ留意シ整備ヲ促進ニ努メツツアリ

早期発見見

特設見張所増設及特設監視艇ノ增強ニ對シハ
當局ニ上申促進ヲ圖ルト共ニ特ニ電探ノ裝備ニ努
力シ九月十九日久島ニ於テ始メテ之ヲ運轉使用シ極
テ有効ナルヲ確認シ他ノ電探モ極力裝備ヲ促進
シツツアリ

而シテ情報ノ傳達ヲ圖ル爲諸通信裝置ノ裝備ヲ
急グト共ニ關係員ノ教育訓練ニ留意努力シツツ
アリ

對空戦力ノ增強

内地ヨリ未着防空隊及各防空砲台整備ヲ急ガ
ト共ニ其ノ訓練ノ徹底ニ努ムル一方當局ニ上申シ局地

(3)

戰鬥機及水上戰鬥機、配屬促進ニ努ツアリ
對空戦力ヲ維持

強靱ナル對空火力ヲ揮テ維持、爲防空砲台自
體、防禦施設實施ニ努ヒト共ニ面被害局限ニ注
意シ之ガ爲各陸上基地ニ對シテ、艦隊其ノ他ヨリ兵力
、應援ヲ得テ掩體及防空壕、構築ヲ促進スル
一方燃料、煤油彈、彈藥、分散格納ニ努カテ先
應急的処置ハ一通リ海員施セリ但シ之皆一時的
モノニテ近キ將來更ニ時間、労力及資材ヲ得
テ本格射ニ海員施ノ要アリ

(二) 敵潜水艦ニ對スル警戒

各部隊共特設駆潜艇監視艇等ヲ以テ所定哨区ノ警戒
及航空機ニヨリ日施哨戒並ニ各地警戒隊、假設見張
所等ニ對テ見張ヲ勵行先行P.T.P.P. 突港艇台ニ對ス

1816

ル航空機ニヨリ、口乃至一ヨリ運搬内、新着直衛ヲ實施セル
モ斯種小艦艇ノ不足ニ伴フ酷使ニヨリ船體祇肉ノ衰
朽甚ク、任務遂行上遺憾ノ點多キ實状ナリ

三) 交通 保護

従来、通各航路共一貫テ護衛ヲ實施シ、交通切ナル航路管
制ヲ適用海上保護ノ萬全ヲ期スル外敵替情況ニヨリ
航路變更ノ指示、水上艦艇及航空機ヲ以テスル對潛掃
蕩ニ全力ヲ傾注セリ

但敵潛、跳梁ハ日ヲ追テ激シク一船団ニ對シ最少限ニ
隻ノ護衛艦ハ是非共必要ニシテ所在兵力ノ増強ハ緊
要ノ問題ナルト共、現在、水偵及觀測機ヲ以テスル對
潛直衛ハ其性能上極メテ不完全ニシテ専用ノ哨戒
機ヲ速ニ製作配属ノ要アルモノト認ム

四) 其他

今日、戰鬥、運輸、補給戰ニ負テ所極ク大ニ現狀ニ於テ當
地ノ任務益々重大ナルヲ考慮シ、運輸ノ圓滑荷役ノ迅速

時期に關係各部の奮勵にツツアリ

1818

五 直接護衛及運航指揮表 (自九月一日 至九月三十日) 第海上護衛隊司令部

護衛艦	被護衛船	護衛区域	期間	隻数	記事
運航指揮班	被護衛船	(自) 至	(自) 至	数	事
隱岐	日鏡丸 興西丸	館山	二二	三	三浦丸 御蔵丸
福江	日鏡丸 興西丸	横須賀	八七	二	
六連	山回丸	横須賀	九一	六	水戸丸 現況
夕月	健洋丸	東経附近	一八	一	
追風	新養丸 長丸 世洋丸	上ノク	二〇	三	

朝日		鳴		鶉		長運丸		第一運航		指揮班	
武庫丸	惠賜丸	白	子草丸	乾	乾	武庫丸	日豊丸	日豊丸	日豊丸	日豊丸	日豊丸
八幡丸	五郎丸	山丸	武庫丸	隆丸	隆丸	武庫丸	朝山丸	朝山丸	朝山丸	朝山丸	朝山丸
球磨丸	五郎丸	丸	志賀丸	丸	丸	志賀丸	満光丸	満光丸	満光丸	満光丸	満光丸
横須賀丸	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク	トクク
二四	二七	二六	二七	二四	二四	二四	二七	二七	二七	二七	二七
二	二	一	三	一	一	一	二	三	二	二	二
		四日									

1820

指 揮 班	第 三 運 航	第 二 運 航	第 一 運 航
長 春 底 滿 丸 箭 丸 盤 丸	興 西 丸 鉄 洋 丸	白 山 丸	大 連 丸
上 之 丸 一 上 之 丸	上 之 丸 一 上 之 丸	上 之 丸 一 上 之 丸	上 之 丸 一 上 之 丸
二 七	二 一 一 二 六	一 四 一 二 五	一 一 一 二 九
四	二	四	一
一 三 港 手 定			可 只 港 手 定

1821

十九

管内内護衛船園並ニ無護衛船園ニ関ル調査(一八一九)

日	船名	船種	噸數	護衛船	直轄護衛船	噸數	被害船名	沈没船名
三	三八二一乙	二	二一六〇	警備六四	サハニト	九〇		
〃	フニマ六	六	二〇九七三	掃一七	ハラオ一	八〇		
〃	四九〇二	五	一一五八二	大連苗	上名ク一	一〇〇		
リ	三九〇二	一	四八六一	二身長丸 七九一六三三	横須賀一	八五		
三	二〇三二	二	一五〇九四	測天 七九一六三三	横須賀一	八五		
〃	〇三〇二	〃	七一三二	晴三一	三ホルト	二四五		
四	二六〇七	七	四六〇八〇	朝風 警備六	分クニ	九〇		
リ	四〇四	四	三四〇七四	警備六三八	ハラオ一	二三四		
五	一〇五五	五	二一七七〇	警備六三三	ハラオ一	一〇〇		
六	〇六〇二	二	一七六二二	早月	佐伯一	一三五		
〃	三九〇二	一	四八六一	三身長丸 七九一六三三	文島一	九〇		
七	七〇四	四	一六七七七	警備六三九	三ホルト	八五		
〃	七〇六	六	二六〇五四	壹岐	ハラオ一	八五		
八	四九〇八	三	七三五八	福五	上名ク一	九五		

護衛船

一五二九二	計	一五二九二
一三三三三	中國平均	一三三三三
一四三三三	平均	一四三三三
一九九	護衛艦	一九九
一八七	船隻數	一八七
九〇	備考	九〇
一船國中軍艦	除	一船國中軍艦
二船敵回數	被	二船敵回數
三船被字	會	三船被字
四船會		四船會

1829

年機

海軍功績調査部長殿
四根機密第三號 一二

自昭和十八年十月一日
至昭和十八年十月三十一日

第四根據地隊司令部
第二海上護衛隊司令部

聯合艦隊第四艦隊

第四根據地隊司令部
第二海上護衛隊司令部

戰時日誌

一月四日送付

8
13



1330

目次

- 一、経過
- 二、人員ノ現状
- 三、令達報告
- 四、参考
- 五、作戦経過概要

(終)

1831

自昭和十八年十月一日
至昭和十八年十月三十一日

第四根據地隊
第三海上護衛隊

戰時日誌

1332

一 經過

(1) 一般情勢

南太平洋戰線ニ於テ敵ハ航空兵力ヲ益々増大スルト共ニ艦隊掩護
下ニ續々輸送船ニテ陸戰部隊ヲ増強シ「ニューギニヤ」東部ニ於
テ「コフィンシユ」港附近ニテ激戰對峙中ニシテ又「ソロモン」群島ニ於
テハ愈々航空戰激烈ヲ極メ我ハ「ブイシ」附近ヲ固守シツ、アリ
又敵ハ潜水艦ヲ以テ後方補給路ノ破壊ニ努カメツ、アリ尚月上旬敵
ハ大島島ヲ大擧空襲セリ
斯ル情勢ニテ第一線ノ補給益々重要ヲ加ラル時ニ當リ不充分
ノ兵力ヲ以テ海上護衛ノ万全ヲ期シ一方「トラック」ノ防備促進
ニ努メタリ

(2) 敵軍ノ情勢

敵潛ノ出没極メテ頻繁ニシテ四根據地警備区域内ニ出現セルモノ
(含通信情報)及第二海上護衛隊艦艇ノ遭遇セル敵潛數延九十

六隻之ニ依ル味方船舶ノ被害七隻内四隻沈没セシガ我ハ敵潜水一隻ヲ撃手沈ヤリ(敵潜出沒状況別表ノ通)

敵航空機ハ基地次第ニ前進スルニ連レ哨戒偵察愈々頻繁トナリ「グリニツチ」ハ敵ノ大型機殆ソド毎日偵察銃爆撃ヲ受ケツツアリ又「ビスマーク」群島北方海面ハ輸送船ノ行動困難トナルニ至レリ又敵機動部隊ハ東方ニ行動シツ、アリ

當方面モ敵ノ長距離爆撃手機或ハ機動部隊ノ來襲モ考フベク今ヤ諸準備ヲ實施スベキ状況ニ在リ

ハ) 任務編制配備

一) 第四根據地隊

機密「カロリン」方面防備部隊命令作第二十二號乃至第二十七號及機密「カロリン」方面防備部隊作第七號乃至第十四號ノ通

二) 第二海上護衛隊
機密第二海上護衛隊命令作第一號ノ通

二) 作戰指導

一) 敵航空機ニ對シ整備ノ促進ニ努メタリ

二) 早期發見

冬島第一電探ノ活用ト共二十月六日同第二電探ヲ完成活用

スルニ至リ又見張所ノ増設ヲ上申スル等情報ノ速達ヲ圖ル
ト共ニ關係員ヲ銳意訓練シ對空警戒ノ完キヲ期セリ

(2) 對空戦力ノ増強並維持

完成砲台ノ試射ヲ實施シ又常時銳意防空砲台ノ訓練ニ努カメ
尚本月水上戦闘機ノ配屬實現シ對空戦力ヲ増強セリ
尚敵ノ攻撃手ニ對シ頑強ニ對空戦力ヲ維持スル爲砲台自身
ノ防禦施設ヲ考慮スルト共ニ危險物ニ對スル掩体防空壕ノ作
成等ニ精進セリ

(一) 敵水上艦艇ニ對スル攻撃力ノ増進

環礁ノ砲台ハ種ヲ十四乃至十五種砲ト換裝以テ敵水上艦艇
ニ對スル攻撃力ヲ増進セリ

(三) 交通保護

從來通各航路共一貫護衛ヲ實施シ又適切ナル航路管制ヲ
適用スル外敵潜情況ニ依ル航路変更指示水上艦艇航空機ヲ以
テ對潜掃蕩ヲ實施スル等海上保護ノ萬全ヲ期セリ

四環礁機雷堰機雷ノ流失ニ伴ヒ防備欠陥生セルニ依リ補填敷設
ヲ開始セシメタリ(今年末完成ノ豫定)

而シテ敵潜ノ跳梁ハ日毎ニ激烈ヲ極メ護衛艦艇ハ一船團ニ

對シ少タトモニ隻ヲ要スルニ至リ尚常時航空機ヲ以テスル警戒

ヲモ考慮ヲ要スルニ至レリ

而シテ當隊護衛艦ノ隻數ヨリシテ

輸送通實施シ得サルニ至レリ 船團ノ運航モ次第ニ計畫

愈海上交通保護ノ重要性ヲ増ス時機トナリ當隊全カヲ傾

注シ之が萬全ヲ期シツ、アリ

(五)其他

今ノ日ノ戦闘ハ運輸補給戰ニノ具フ所極メテ大ナル現狀ニ於テ當
地ノ任務益々重大ナルヲ考慮シ運輸補給ノ円滑荷役ノ迅速ニ
關シ各部隊ヲ督勵シツ、アリ

(五) 直接護衛及運航指揮船表 (十月一日)

第二海上護衛隊

護衛艦 運航指揮班		隱岐	福江	夕月	朝風
被護衛船		千早丸、笠崎丸、朝日丸、志賀丸、浦丸、 建武丸、秋葉丸、宇洋丸	萬壽丸、建武丸、三江丸、招南丸、 泰安丸、P.S.丸、武庫丸、 常島丸、地洋丸	總洋丸、安房丸、山鬼丸、 北洋丸、鶴丸、蓬永興丸、 神洋丸、乾進丸	吾妻丸、玄洋丸、 十四戰隊(手鈴丸)栗田丸、 日本丸、東連丸
護衛區域 (自一至)		トトラックー横須賀	トトラックー横須賀	トトラックーポナペ	トトラックー横須賀
期間 (自一至)		三ー二	二六	八ー九	一四ー二一
隻数		四	三	二	二
記 事					

第二運航 指揮班		長運丸			鶉			鴻			追風					
山國丸、昭榮丸、日吉丸	天南丸、興津丸	白山丸	山福丸、君島丸	へいわ丸、金泉丸、辰浦丸	君島丸	日吉丸	夜笠丸、興津丸	朝山丸	天城山丸、Rヨリ、山福丸	國川丸、五洲丸	山國丸、昭榮丸、日吉丸	海老丸、金井山丸	富士山丸	白山丸	朝風丸	間宮朝風丸
トラックー横須賀	トラックーラバウル	横須賀ートラック	トラックー横須賀	モートルックートラック	モートルックートラック	トラックーモートルック	ラバウルートラック	トラックーラバウル	ラバウルートラック	トラックーラバウル	トラックー横須賀	サイパンートラック	トラックーサイパン	横須賀ートラック	吳(神戶經南)ートラック	300N 41.0E 附近ー吳
二二一三一	九一一三	二六一五	一四一二四	九一〇	三一四	二五二九	一五一一九	五一一九	二八一一四	二二一一二	一七一二〇	一三一一五	九二六一五	二二一一三一	一七一一九	
三	二	一	五	一	一	二	一	二	二	三	二	一	一	一	二	

1837

第五運航 指揮班	第三運航 指揮班	
山福丸、君島丸	へいわ丸、全泉丸、辰浦丸 總洋丸、安彦丸、山鬼丸	万壽丸、建部丸、三江丸、 招南丸、泰吉丸、(PS)武蔵丸、 常島丸、地洋丸
トラックー横須賀	トラックー横須賀	トラックー横須賀
一四ー二四	二六	八一ー一九
五	三	八

1838

六) 十月中麾下艦船部隊行動
第四根拠地隊司令部

三二	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
(潤=戦作) 編=隊部備防鎮吳時一																(中理修) 吳											高榮丸	隊名	任務			
至ラバウル	自ラバウル	護衛	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至	クツラト	自護衛	至
クツラト																クツラト											三九號	P	驅			
クツラト																クツラト											三〇號	T	潛			
クツラト																クツラト											二八號	掃	隊			
クツラト																クツラト											三一號	單	蕩			
クツラト																クツラト											三二號	艦	隊			
クツラト																クツラト											三三號	隊	隊			
クツラト																クツラト											國光丸	P	T	哨	隊	
クツラト																クツラト											拓南丸	第	二			
クツラト																クツラト											昭南丸	第	五			
クツラト																クツラト											拓南丸	第	一〇			
クツラト																クツラト											昭南丸	第	八			
クツラト																クツラト											羽衣	特	隊			

三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	日	船名	隊名	任務						
トラック	區 哨			掃蕩	對潜	クツラト		區 哨			入手関機クツラト					掃蕩	對潜	區 哨		トラック	能代丸	二號	特掃																	
同上	地業作	クツラト		地業作	クツラト	作業地	トラック	地業作			クツラト			作業地	トラック	地業作	クツラト		地業作	敷設艇	三號																			
至トヨナバ	クツラト自衛		區 哨			クツラト		區 哨		クツラト	區 哨		區 哨		クツラト	區 哨		クツラト	金城丸	特敷																				
破氣修正	クツラト		掃蕩	對潜	クツラト	區 哨			クツラト		區 哨			クツラト	區 哨		クツラト	區 哨	特務艇	五號																				
區 哨				掃蕩	對潜	クツラト					自衛		クツラト					一モ		至トヨナバ	自衛	クツラト	特務艇	六號																

加

十月中麾下艦船部隊ノ行動 第二海上護衛隊司令部

三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日名
トラック着					横須賀祭						横須賀祭						横須賀着				横須賀着						トラック祭	トラック着	トラック着	隠岐	
					横須賀祭						横須賀着											トラック祭							トラック着	福江	
トラック祭	トラック着				トラック祭						トラック着											横須賀祭								夕月	
											横須賀着											トラック着								朝風	
トラック着											神戶祭	神戶着	呉着	呉着								父島祭	父島着							追風	
											トラック祭	トラック着	サイパン着	サイパン着								トラック祭	トラック着							鴻	
																														鶴	
																														長運	

九

(六)管内護衛船團並ニ無護衛船團ニ關スル調査 (一八一〇)

日	船名	番號	隻數	總噸數	護衛船	直接護衛範圍	船速力	回數	被害船名	沈没船名
一	フ	一〇五	五	一五九八六	第六京丸	パラオー深島	八・五			
〃	六	〇一	一	三〇八三	驅潜ニ丸	クエゼリントラック	一〇・〇			
〃	八	〇一	一		朝長安丸	パラオートラック	九・五			
三	四	〇〇三	四	二五五六四	隱岐、雷	トラックー横須賀	一〇・〇	二		
〃	ソ	三〇四	四	一六九九八	驅潜八、三七	パラオーラバウル	八・五	一		加州丸
〃	オ	三〇二	二	一二六五九	驅潜モ、四〇	ラバウルーパラオ	八・〇			
四	三	〇〇四	二	六四八一	白露	横須賀ートラック	二二・〇	一		
五	二	六〇八	六	一五九〇三	早苗、驅潜五	バグックパシーパラオ	八・五			
〃	ネ	五〇二	二	一一一五八		パラオーバグックパシ	九・〇			
〃	二	〇五二	二	一一五五三	鷗、二八	ラバウルートラック	八・五	一		
〃	フ	五〇六	六	一五二五七 一隻不明	三、岐	パラオー深島	七・五			
〃	春	船名	二	八九八五		パラオーハルマヘラ	八・五			
〃	オ	五〇三	三	六九九四	鳩	佐伯ーパラオ	八・〇			
八	四	〇〇八	八	二五一二	福江、三、初島	トラックー横須賀	八・五			

〃	二三	〃	〃	〃	二〇	〃	〃	一八	〃	〃	一六	〃	〃	〃	一五
フニ〇一	臨時船固	ソ〇一〇	ソ〇〇二	三〇二〇	身〇〇六	五二〇三	二六〇九	フ八〇七	三〇九丙	三〇九甲	才六〇二	二五一	一一五二	才五〇四	八一五二
一	五	一〇	二	三	六	三	八	七	三	二	二	二	一	四	二
四八六一	二五七六九	二隻不明	一〇一一四	一一九三二	一隻不明	一隻不明	二八六八二	三七一一四	一隻不明	一一九二七	一五四五五	四七〇七	一九一七	二一二三二	一一九二
駆潜三四	第五十番州丸	路島	駆潜二六三九	隠岐	駆潜三二二四	駆潜特一九	若竹白丸	昭和一部隊カ	第三鷗丸	審	太刀風	早潜五苗	鷗	駆潜三三三六	白露
パラオー佐伯	マニラーパラオ	佐伯ーパラオ	パラオーラバウル	横須賀ートシノ	ラバウルーパラオ	トラツクークエゼリン	パラオー昭南	パラオー佐伯	長島ーサイパン	横須賀ードラック	ラバウルーパラオ	パラオーバックスパン	トラツクーラバウル	ラバウルーパラオ	トラツクーラポール
一三〇	八五	八〇	九五	九〇	八五	八〇	九五	九〇	八五	一〇〇	二二五	九〇	九五	八五	二二〇
					一					一	一				一
											五州丸				
					天南丸華山丸 洋宝丸										

64

1064

シ	シ	三一	シ	三〇	二九	二七	シ	二六	シ	シ	シ	シ	二五	シ	二三	二二
オ一一二	オ一〇四	二五一二	二三〇二	五三〇一	ソ九〇四	五二七一	フ六〇七	三〇二六	オ九七五	二二五二	三〇一四乙	三〇九丙	オ五〇五	五二三三	一二三二	フ二〇二
一二	四	一	二	一	四	一	七	三	七	二	一	三	五	四	二	二
四〇二九七	一九七三八		一二三八七	三一二六	一六六六〇	一五一四	三七六八四	一〇八八一 一隻不明	三二八五八	一五〇七三	一五二一	一佳又不明 四九〇	二三二〇〇	一七四四五	一隻不明 六五七	一五四三三
福南丸	福南丸	差竹	駆潜三三		駆潜三七三八	金城丸 第入昭南丸	哨三一	福江二号長丸	臺波三掃海隊 涼波協力	鷗	駆潜特三四	第三南丸 一部護衛	駆潜一七二八	第二南丸	駆潜三三	春風
佐伯一パラオ	ラバウル一パラオ	パラオ一トラツク	ラバウル一トラツク	トラツク一クエゼリン	パラオ一ラバウル	トラツク一クエゼリン	パラオ一深島	横須賀一トラツク	佐伯一パラオ	ラバウル一トラツク	シ	サイパン一トラツク	ラバウル一パラオ	トラツク一クエゼリン	トラツク一ラバウル	パラオ一深島
八、五	八、五	二〇、〇	一〇、〇	二一、〇	八、五	二〇、〇	九、〇		八、五	二三、〇	九、〇	八、五	シ	九、五	一〇、〇	一六、〇
							一									
							南満丸									

一 隻 平 均	一 船 回 平 均	合 計
三七	三七	三七
三六八五	一三二六四	八六二九六
護衛艦數		
船回數		
99		
55		
備考		
一、船回中、軍艦特務艦ヲ 除ク 二、會敵回數並沈没船舶 被害船舶ハ入電ノモノニシテ		

65

1048

六) 敵情

日時刻	摘要
一 一七四〇	北緯四度東經一四三度五分。分ニ於テ東寧丸、金華山丸敵潜ノ來襲ヲ受ケ五分後沈没
一 一八〇〇	通信情報ニ依レバ北緯四度四分東經一三五度五分其ノ他敵潜ノ存在確實
二 二〇〇〇	通信情報ニ依レバ北緯四度。分東經一四六度三分其ノ他敵潜ノ存在概ニ確實
二 二〇〇〇	通信情報ニ依レバ北緯〇度。分東經一六一度三分其ノ他敵潜ノ存在概ニ確實
三 三〇六五五	伊一六潜北島ノ三〇度四厘ニ敵潜水艦ヲ見九。二空飛行機一六三〇ヨリ一七三〇迄索敵實施スルモ敵情ヲ得ズ
三 三〇六五五	尔后更ニ九。二空飛行機十五昭南丸驅潜三十二号能代丸掃蕩ヲ實施スルモ敵情ヲ得ズ
四 四〇〇〇	宝洋丸北緯七度五分。分東經一五〇度二分。分ニ於テ敵

機

防務調査部長殿
四根機密第九〇號
二

自昭和十八年十一月一日
至昭和十八年十一月三十日

一月十八日
送付

第四根據地隊司令部 戰時日誌

聯合艦隊第四艦隊
第四根據地隊司令部

19.2.1

1348

目次

- 一、經過
- 二、人員、現狀
- 三、令達報告
- 四、~~卷~~敵情
- 五、作戰經過概要

(終)

1849

自昭和十八年十一月一日
至昭和十八年十一月三十日

第四根據地隊戰時日誌

一、経過

(内) 一般情勢

北方及西南方方面ニ於テハ特ニ敵ノ來攻ナキモ南東及内南洋方面ニ於テハ敵ノ攻撃手合兇々激烈ヲ極メ本月初頭敵ハ「ブーゲンビル」島西方ニ有力部隊ヲ揚陸又同時期我が「ラホール」方面出動水上部隊ニ對スル敵ノ大舉空襲アリ中旬ハ「ギルバート」方面ニ極メテ多数ノ母艦ヲ以テスル旬日ニ亘ル攻撃ヲ掩護ノ下ニ有力部隊ヲ揚陸來攻シ來レリ

我ハ何レノ方面ニ於テモ大ニ奮闘敵ニ對シ我ニ数倍スル大打撃ヲ與ヘタリ

尚一方輸送益々逼迫ヲ加フル時ニ當リ敵ハ潜水艦ヲ增強シ愈々後方補給線ノ遮断ヲナシツクアリ

(四) 敵軍ノ情勢

敵ハ「タロキナ」上陸以來南東方面ニ於テモ益々哨戒圈ヲ擴大

シコグリニツケルハ毎日敵機ノ來襲スルアリ。又敵ノ「ギルバート」上陸ニ依リポナパ方面モ愈々防備ヲ要スルニ至レリ

一方海上ニ於テハ敵潜ノ跳梁甚シク「カロリン」方面ニ於テ敵潜ノ出現延ハ十隻ニ上リ且「トラック」バ「ラオ」附近ニ於テハ敵潜蝟集シ常時嚴重ナル警戒掃蕩ヲ要スル狀況ナリ

(一) 任務編成

機密「カロリン」方面防備部隊命令作第二十二號並機密「カロリン」方面防備部隊作第七號乃至第十號及同第十二號乃至第十六號ノ通

ニ 作戰指導

(一) 敵航空機ニ對シ留意シ整備ノ促進ニ努メツ、アリ

(二) 早期發見

電探ノ哨戒ヲ嚴ニスルト共ニ各地見張所ノ活用ニ努メ且之ガ訓練ヲ常ニ勵行セリ

(三) 對空戦力ノ增強

新設陸上防空砲台ノ完成ヲ促進スルト共ニ航空機用二十耗機銃ヲ假改装シ防空ニ資スルト共ニ常ニ訓練ヲ勵行セリ

ハ對空戦力ノ維持

燃料爆彈等ノ危険物ニ對シ麾下兵力及ビ艦隊兵力第四
施設部ニ協力シ掩体作成分散格納等被害局限ニ努ムル
ト共ニ防空壕ノ作成家屋ノ對防空等ニ留意セリ

(二) 敵攻略部隊ニ對スル砲台整備

環礁及島内主要島ノ砲台ノ改設促進ニ努メタリ

(三) 敵潜水艦ニ對スル警戒並ニ護衛協力

航空部隊ヲ以テ常中ニPT PP附近對潜警戒ヲ實施スルト共ニ常
ニ艦艇ヲ以テ警戒戒シ或ハ適時掃蕩ヲ實施シ一度敵水艦ヲ
認ムルヤ航空機艦艇ヲ以テ之ガ撃沈ニ努メタリ
而シテ常中ニ護衛ニ協力其ノ全ヲ期セリ

(四) 其他

運輸補給ヲ迅速ニ實施シ又港務ヲ円滑ニスル等常中ニ
作戰ニ協力セリ

(終)

17

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	白船名	隊名	任務		
入 編 = 隊 部 備 防 鎮 吳 時 一																												高榮丸						
クツラト		カ 協 衛 護		ルウバラ 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		三十二	三十二	駐港艇				
クツラト		カ 協 衛 護		ルウバラ 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		三〇	三〇	駐港艇		
クツラト		カ 協 衛 護		ルウバラ 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		二八	二八	駐港艇		
ル 入 = 下 麾 根 六 時 一																												三二	三二	駐港艇				
ル 入 = 下 揮 指 隊 部 洋 南 外 時 一																												三三	三三	駐港艇				
クツラト 自 護 衛		クツラト		オラバ 自 護 衛		オラバ		クツラト 自 護 衛		オラバ 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		クツラト 自 護 衛		三三	三三	駐港艇		
クツラト 中 理 修																												五十七	五十七	駐港艇				
クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		クツラト		第二	第二	駐港艇
中 属 配 = 部 務 港 四 第 時 一																												第五	第五	駐港艇				
カ 協 衛 護 區 哨 面 方 ペ ナ ポ																												第十	第十	駐港艇				
カ 協 衛 護 區 哨 面 方 ペ ナ ポ																												第八	第八	駐港艇				
衛 護 隊 船 魚		區 哨 南		クツラト		區 哨		協 護 衛		區 哨		クツラト		區 哨		區 哨		區 哨		區 哨		區 哨		區 哨		區 哨		區 哨		特掃	特掃	羽衣丸		

十一月 中 麾 下 艦 船 部 隊 行 動 第 四 根 據 地 隊 司 令 部

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	船名	任務							
(理修部洩漏罐) クツラト																区		哨		哨	ト	(難救) 衛護		区		哨	カ	ー	ト	能代丸									
クツラト	衛護		クツラト		作業地	ト	区		哨		ト	作業地	クツラト		作業地	ト	作業地	クツラト		敷設艇																			
クツラト	衛護		区	哨	クツラト	区		哨		クツラト		区		哨	衛護	哨	クツラト	至	自	護	金城丸										特								
(中理修) クツラト																クツラト		自		輸		クツラト		自		輸		特務艇											
区	哨	クツラト	ン	エ	カ	自	護	カ	クツラト	自	護	哨	ト	援救		クツラト		区		特務艇																			

自昭和十八年十二月一日
至昭和十八年十二月三十一日

第四根據地隊戰時日誌

一 経過

(イ) 一般情勢

敵ハ南東方面ニ攻勢極メテ激烈ニシテ「ドロキナ」方面ニハ續々増強シ三日「シンボ」島西ニ於テ空母五戰艦ニテ合ム敵多數部隊未攻夕刻我ハ之ニ對シテ航空攻撃ヲ加ヘ空母三其ノ他多數ヲ撃沈破セシモ之ニ懲リズ輸送ヲ續行シ基地ヲ整備シツ、アリ又「Q」方面北方ニ時々空母部隊行動ス。該方面ノ制空權ハ漸次敵手ニ入リツ、アリ。又十四日敵ハ「コマカス」岬附近ニ上陸シ末リ我ハ數日ニ亘リ上陸部隊ヲ攻撃シ上陸時ニ於テ大部ヲ撃破セシモ遂ニ揚陸セリ一方「ユイギヤ」方面ニ於テハ敵ハ艦砲攻撃ト共ニ漸次北進シ未レリ、「ラポール」方面ニ對スル敵空襲ハ愈々激烈ヲ極メツ、アルモ毎回多數ノ敵機ヲ撃墜シツ、アリ。「マリーシャル」方面ニ於テハ敵ハ「クワウ」マキン占領後急速基地ヲ整備シ今方面我諸島ニ對シテ間断ナキ砲空攻撃ヲ加ヘツ、アリ我ハ主トシテ夜間敵基地ヲ攻撃ヲ續行シツ、アリ。

南東及東方正面ハ斯ク多端ナルモ西方々面ハ未ダ敵大部隊ノ未攻ヲ專ラ

対敵準備ニ努カスツアリ

(ロ) 敵軍ノ情勢

ソロモン北方「クリッチ」附近ニ至ル海面ノ昼間哨戒廣範圍ニ至リ「クリッチ」ニハ毎日敵機未襲レ下旬ニ至リテ「モートロツク」ニ敵機未襲スル至リ念々「トラック」モ敵空襲ニ対シ至急ノ警戒ヲ要スルニ至レリ。

一方敵潜水艦ハ「トラック」「パラオ」周辺ニ蟻集レ又「トラック」「ラボール」間「トラック」「パラオ」間ニ多敷出現シ襲撃ノ方法モ熟練斬新ニシテ輸送船ノ被害多ク常時至當ナル対策警戒並ニ迅速徹底的ナル制圧並ニ掃蕩ヲ要スルニ至レリ。

(ハ) 任務編成

機密「カロリン」方面防備部隊命令作第三十二号、第三十九号及機密「カロリン」方面防備部隊命令作第七号乃至第十号、第十二号乃至第十五号、第十七号乃至第十九号ノ通

二 作戰指導

(一) 敵航空機ニ対スル対策

(ハ) 早期発見並情報速達

各見張所、電探ハ極力訓練ヲ實施シテ技術ヲ向上シ至嚴ナル警戒ヲ實施ス
スト共ニ「モートロック」ニハ電探ニシテ進出セシメ又金曜島ノ電探ヲ整備シ以テ
「トラック」附近対空警戒能力ヲ向上セリ

又通信装置ノ整備情報ノ速達ヲ研究可及的實施セリ
尚觀測機ヲ以テスル対空警戒實施ニ関シテハ常ニ至嚴ナル警戒ヲ實施

ニ遺憾ナキヲ期セリ

(2) 対空戦力ノ増強

高角砲砲口ノ整備ヲ促進スト共ニ春島基地ニ臨時ニ第六十九防空隊ヲ配シ
対空戦力ヲ増強セリ、又照射能力、指揮官ノ対空射撃指揮能力ノ向上ヲ
期セリ、又航空方面ニ於テハ訓練ヲ實施シ水戦觀測機共之ガ能力ヲ向上
セシメタリ

(3) 対空戦力ノ維持

爆弾可燃物等ノ掩体ヲ徹底的ニ實施スル様指導シ且防空壕ノ作成ヲ實
施セシメタリ

(二) 敵潜水艦ニ対スル対策

(1) 「トラック」「パラオ」「サバン」ニ適切ナル航空兵力ヲ配シ之ガ移動使用ヲ適切ニ
以テ最大能力ヲ發揮シ出入艦艇ニ対シ可及的長距離迄対空直衛實施

施ニ努ムルト共ニ常時対潜警戒ニ任ジ或ハ掃蕩ヲ實施セリ。

(2) 見張所監視艇ヲ以テ又方位測定ニ依リ敵潜ノ発見ニ努ム。

(3) 敵潜発見ノ際ハ速ニ可及的多数ノ対潜攻撃兵力ヲ出動セシメ迅速徹底

的ナル制圧掃蕩ヲ實施セシム

(4) 根據地艦艇ヲ以テ護衛部隊ニ協力以テ護衛ノ全キヲ期セリ。

✓ (三) 陸軍部隊進出ニ協力

陸軍部隊進出ニ当リ之ガ準備並ニ輸送護衛ニ任ジ防備ニ向レ協力或ハ指導

ニ任セリ。

(四) 港務ヲ適切ニ實施スルト共ニ運輸、補給適切ニ實施サル、如ク協力指導セリ

(終)

三	二	一	日	隊名	任務
入 麻 = 隊部備防鏡吳時一				丸榮高	
ンリゼエク自護	ンリゼエク	クツラト自護	クツラト	ルウバラ自護	クツラト自護
クツラト至イ	クツラト	クツラト至イ	クツラト	クツラト至イ	クツラト至イ
クツラト自護	区 哨	(理 修)クツラト	掃 対	クツラト	パ ナ ポ 自護
クツラト至イ	区 哨	クツラト	掃 対	クツラト	クツラト至イ
協 護	ルウバラ自護	クツラト自護	クツラト	協 護	オ ラ パ 自護
カ イ	クツラト至イ	ルウバラ至イ	クツラト	カ イ	クツラト至イ
クツラト自護	掃 対	クツラト	ル 入 = 下 揮 指 根 六 時 一		
クツラト至イ	掃 対	クツラト	ル 入 = 下 揮 指 隊 奇 洋 南 外 時 一		
オ ラ パ	クツラト自護	クツラト	掃 対	ルウバラ自護	クツラト自護
オ ラ パ	クツラト至イ	クツラト	掃 対	クツラト至イ	クツラト至イ
カ イ 渡 = 並 区 哨	ク ツ ラ ト	ク ツ ラ ト	輸 送	クツラト	イ 渡 國 船 漁
			輸 送	カ イ 護	クツラト
(中 屋 配 部 務 港 口 第 時 一) クツラト				丸光國	五十七 艦 隊
イ 護 = 並 区 哨 面 方 ペ ナ ポ				二 第 丸 南 柘	五 一 第 丸 南 柘
エ				八 第 丸 南 柘	丸 衣 羽
ク ツ ラ ト	区 哨	クツラト	区 哨	ク ツ ラ ト	区 哨
クツラト	区 哨	クツラト	区 哨	カ イ 護	クツラト
ク ツ ラ ト	イ 護 國 船 漁	区 哨	区 哨	区 哨	クツラト
クツラト	区 哨	クツラト	区 哨	ク ツ ラ ト	丸 城 金
ク ツ ラ ト	ク ツ ラ ト	ク ツ ラ ト	ク ツ ラ ト	ク ツ ラ ト	丸 五 特
イ 護 = 並 区 哨	クツラト	区 哨	クツラト	パ ナ ポ 自護	パ ナ ポ 協 護
				クツラト至イ	カ イ

十二月分麾下艦船部隊ノ行動

1859

百昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月十五日

第四根據地隊戰時日誌

一 經過

(一) 敵

一 敵情

北東方面南西方面ニ於テハ特ニ敵ノ進撃ナキモ南東方面内南洋方面
ニ於テハ敵ハ愈々攻撃ニ出デツアリ南東方面ニ於テハコラバルニ対スル空
襲ハ愈々識烈ヲ極メコニエーギヤニ於テモ敵機盛シキ飛来シツアリ又
ソロモン海域ニハ敵艦船屢々行動シツアリ陸上ニ於テハワツルゾマカス
ノ敵ハ戦果拡張シツアリコニエーギヤニ於テハコシホノ西北方ニ敵上陸シ来リ
コインジエ方面ヨリノ敵ト呼應進出シ来リツアリ

(ロ) 内南洋方面

コラバルト方面ヨリコマーシャル方面ニ依然執拗ニ空襲アリ一月十一日
コサイニ始メテ空襲アル

最近ニ於ケル通信諜報ヲ綜合判断スルニ敵ハ月下旬乃至二月上旬
従来ヨリ一層大ナル兵力ヲ以テ中部大平洋及南東方面ニ攻勢ヲ出
ツル算アリ

(二) 我軍ノ状況

(イ) マーシャル方面ニ在ル我海軍航空部隊ハコラワ「マキン」兩敵飛行場ノ攻

撃ヲ續行スルト共ニ未だ襲敵機ヲ撃墜シ多クノ戦果ヲ收メアリ

(ロ) 陸軍ノ到着配備状況

南洋第二支隊 一月十一日「コクサイ」場陸 南洋第三支隊 一月九日「ボク」場陸

南洋第四支隊 一月十日「モートロク」場陸

第五十二師団 第一次進出部隊揚陸完了

(ハ) 第四艦隊麾下ノ第三特別根據地隊ハ一月五日解散「バラオ」ニ新々ニ第

三〇特別根據地隊設置セラレ之件ヒ一月十日防備増任区域変更サレ

タリ

(三) 作戰指導

(イ) 作戰命令ノ要綱

機艦カロリン方面防備部隊命令依第三號、今第二八號、機艦東カロリン方面

防備部隊命令依第二號、機艦「カロリン」方面防備部隊依第八號乃至十號

今十二號乃至十六號ニ通リ、

南洋第三支隊長ニ対スル「ボク」中備命令、機艦「カロリン」方面防備部隊命令依第一號

南洋第四支隊長ニ対スル「モートロク」中備命令、今 第二號

(四)

南洋第二支隊長ニ対スル守備命令 令 第四號

行動訓練、整備施設等計画並指導

射撃訓練計画(下等、高角砲等) 樞密第四根據地隊命令 第七號

対空射撃講習 令 第一號

砲術指導班、滿洲教育(四、五、六、七) 四根命令 第一號

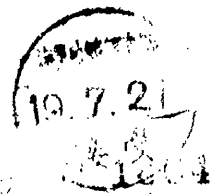
ガトウシ水上基地(水偵十二機用)施設 令 第五號

(終)

海軍功績調査部長 放
機

四根機密第九〇。龍ノ五

五月三十日



自昭和十九年二月一日
至昭和十九年三月三十一日

第四根機密地隊司令部戦時日誌

聯合艦隊第四艦隊
第四根機密地隊司令部

一、終過次
二、人員現狀
三、令達報告
四、敵情
五、作戰經過概要

終

1865

一、経 過

(一) 敵 情

(イ) 敵

南西方面ニビルマ國境ニ於テハ「アキヤ」方面ノ敵ハ積極的ニシテ全般ニ於テ愈々兵カヲ増加攻勢ノ鋭アルモ具體的進出ナレ

北オ方面ニ於テハ比干島ニ敵機屢々来襲ヲレツ、アリ

南東方面ニ於テハ「ラバール」ニ對シテハ空襲ヲ愈々熾烈ニシテ

「タリキナ」基地整備ニ伴ヒ航艦兵カハ益々進出シ来リ又「クリ

ン」島ノ施設ヲ強化シ「ユエーブリテン」島「マーカー」ツル「地」ニ益々

兵カヲ増加レツ、アリ「エーデ」方面ニ於テハ我が兵團ハマ

ダニ附近ニ軌進レツ、アリ敵ハ「グン」ニ上陸等航艦機ヲ執力

カト相俟ツテ進撃ヲ来リツ、アリ

(ロ) 南洋方面

本月敵ハ「マール」方面ニ於テ大攻勢カニ轉セリ 即チ上旬「グ

ゼリン」ニ進出シ来リ之ヲ占領「マール」各基地ノ攻撃ヲ反覆ス

ルト共ニ愈々哨戒圏ヲ拡大セリ二月十七、八日ノ兩日機動部

隊ヲ以テ「トラック」ニ大舉ニ空襲ヲ来リ而シテ尔後敵艦母

1866

(二)

「マーレアル」方面ニ出沒シアリ敵ハ下旬「アラウシ」ヲ占領セリ
ニニニ「サイパン」東方ニ敵機動部隊出現我ハ之ヲ攻撃セシ
モ敵ハニニニ「サイパン」ガム「テニアン」地方ヲ侵襲シ来レリ
我が軍ノ状況

「マーレアル」方面各地ハ熾烈ナル砲爆撃ヲ受ケツ、敢然奮闘ナレリ
該地方ノ航空機格乗員ヲPTニ集中セリ、二月十二日ハ「ルオット」
ヲ空襲シ敵基地ニ大火ヲ生ゼシム、十三日夜間ヨリ十三日早朝
ニカケテ敵空母群ヲ急襲シ空母一隻ヲ撃沈破セリ
陸軍部隊ノ状況

(1) 甲支隊ニ編入セラルベキ迫撃手中隊戦車中隊等ハ敵情ヲ考
慮シ揚陸地ヲクサイヨリ「ホナペ」ニ変更進出

(2) 大島島増強部隊第二次輸送部隊ハ情勢ノ変化ニ依リ「ホナ
ペ」ニ揚陸

(三)

(1) 南洋第五支隊八十四日「メレヨ」ニ向ヒ前進中ナリ
(2) 第五十二師団第二次進出部隊ハ二月六日「錦山」ヲ前進中ナリ
作戰指導書
1) 作戰命令ノ西支綱

←1072番

機艦カロリン方面防備部隊命令作第ニ号、機艦東カロリン
方面防備部隊命令作第四号、機艦カロリン方面部隊作
第ニ号、機艦東カロリン方面防備部隊作第四号乃至
第ニ号、機艦東カロリン方面防備部隊命令作第七号
(PTM環礁比水道普通機艦閉塞ノ件) 全第十八号(警戒
時同並敬言戒西セ領ノ件)

(D) 行重補給及施設ニ関スル計画並指道等

(1) 機艦船ヲ以テナニテ「モートロツ」補給実地

(2) PT第ニ号見辰所ヨリ南洋聽ニ至ル道路作成命令

(3) 十五握砲六門(冬島、秋島、春島各二門)及十二握砲二門

(秋島) 裝備命令

(4) 昭和十九年度教育方針命令

(秋)

1868

二月中摩下艦部隊行動

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	船名	隊名	備考
明 不 動 行 後 以 救 護																	ツラト										九	二	第三駆潜隊	二		
オラパ																	ツラト										九	三				
クツラト																	ツラト										九	四				
クツラト																	ツラト										九	五				
オラパ																	ツラト										九	六				
クツラト																	ツラト										九	七				
オラパ																	ツラト										九	八				
クツラト																	ツラト										九	九				
オラパ																	ツラト										九	一〇				
クツラト																	ツラト										九	一一				
オラパ																	ツラト										九	一二				
クツラト																	ツラト										九	一三				
オラパ																	ツラト										九	一四				
クツラト																	ツラト										九	一五				
オラパ																	ツラト										九	一六				
クツラト																	ツラト										九	一七				
オラパ																	ツラト										九	一八				
クツラト																	ツラト										九	一九				
オラパ																	ツラト										九	二〇				
クツラト																	ツラト										九	二一				
オラパ																	ツラト										九	二二				
クツラト																	ツラト										九	二三				
オラパ																	ツラト										九	二四				
クツラト																	ツラト										九	二五				
オラパ																	ツラト										九	二六				
クツラト																	ツラト										九	二七				
オラパ																	ツラト										九	二八				
クツラト																	ツラト										九	二九				
オラパ																	ツラト										九	三〇				
クツラト																	ツラト										九	三一				
オラパ																	ツラト										九	三二				
クツラト																	ツラト										九	三三				
オラパ																	ツラト										九	三四				
クツラト																	ツラト										九	三五				
オラパ																	ツラト										九	三六				
クツラト																	ツラト										九	三七				
オラパ																	ツラト										九	三八				
クツラト																	ツラト										九	三九				
オラパ																	ツラト										九	四〇				
クツラト																	ツラト										九	四一				
オラパ																	ツラト										九	四二				
クツラト																	ツラト										九	四三				
オラパ																	ツラト										九	四四				
クツラト																	ツラト										九	四五				
オラパ																	ツラト										九	四六				
クツラト																	ツラト										九	四七				
オラパ																	ツラト										九	四八				
クツラト																	ツラト										九	四九				
オラパ																	ツラト										九	五〇				
クツラト																	ツラト										九	五一				
オラパ																	ツラト										九	五二				
クツラト																	ツラト										九	五三				
オラパ																	ツラト										九	五四				
クツラト																	ツラト										九	五五				
オラパ																	ツラト										九	五六				
クツラト																	ツラト										九	五七				
オラパ																	ツラト										九	五八				
クツラト																	ツラト										九	五九				
オラパ																	ツラト										九	六〇				
クツラト																	ツラト										九	六一				
オラパ																	ツラト										九	六二				
クツラト																	ツラト										九	六三				
オラパ																	ツラト										九	六四				
クツラト																	ツラト										九	六五				
オラパ																	ツラト										九	六六				
クツラト																	ツラト										九	六七				
オラパ																	ツラト										九	六八				
クツラト																	ツラト										九	六九				
オラパ																	ツラト										九	七〇				
クツラト																	ツラト										九	七一				
オラパ																	ツラト										九	七二				
クツラト																	ツラト										九	七三				
オラパ																	ツラト										九	七四				
クツラト																	ツラト										九	七五				
オラパ																	ツラト										九	七六				
クツラト																	ツラト										九	七七				
オラパ																	ツラト										九	七八				
クツラト																	ツラト										九	七九				
オラパ																	ツラト										九	八〇				
クツラト																	ツラト										九	八一				
オラパ																	ツラト										九	八二				
クツラト																	ツラト										九	八三				
オラパ																	ツラト										九	八四				
クツラト																	ツラト										九	八五				
オラパ																	ツラト										九	八六				
クツラト																	ツラト										九	八七				
オラパ																	ツラト										九	八八				
クツラト																	ツラト										九	八九				
オラパ																	ツラト										九	九〇				
クツラト																	ツラト										九	九一				
オラパ																	ツラト										九	九二				
クツラト																	ツラト										九	九三				
オラパ																	ツラト										九	九四				
クツラト																	ツラト										九	九五				
オラパ																	ツラト										九	九六				
クツラト																	ツラト										九	九七				
オラパ																	ツラト										九	九八				
クツラト																	ツラト										九	九九				
オラパ																	ツラト										九	一〇〇				

軍機

複機密第九〇六號

海軍少將 綱本部長 殿

自昭和十九年三月一日
至昭和十九年三月三十一日

第四根據地隊司令部戰時日誌

聯合艦隊第四艦隊
第四根據地隊司令部

六月三十日提出



1870

一、経過
二、人員、現状
三、令達報告
四、敵情
五、作戦経過概要

終

1871

一 経過

敵情

南西方面変化ナキモ「ビルマ」方面、戦局ハ「ミツシヨ」附近ニテ「インパール」街道、遮断ニ成功我ニ有利ニ展開シツツアリ、北方方面ニ於テ敵ハ北千島攻勢、微アルモ具体的進出ナシ

南東方面ニ於テハ「アドミラルティ」群島「ロスネグロス」島ニ上陸ヲ強行シ、敵ハ逐次兵ヲ増強シツツ更ニ「ニューブリテン」島「ホルマン」岬西側「バルバイ」ニ上陸シ來リ次デ「カビエン」北方セントマツシアス「群島」エミロウ

島又敵午ニ帰スルト共ニ「カビエン」「ラバール」ニ對スル空襲熾烈ヲ極メ「ラバール」ニ於テハ敵ハ主トシテ軍需品集積所及市街ヲ目標ニ

指向ス「タロキナ」作戰ハ順調ニ進展シツツアリシモ諸種ノ情況ニ依リ一時中止ノ已ムナキニ至ル「ニューギニア」方面ニ於ル敵ハ航空機ノ勢

力下ニ進雲シツツアリテ北部「ニューギニア」「アイタベ」ニハ上陸作戰敢行セルモノ、如シ

(四)内南洋方面
敵ハ銳意「タラワ」「クエゼン」「アタラシ」基地、強化ヲ努メ、逐次

(二)

隣接島嶼ヲ蠶食シ「エボン」島亦敵午ニ帰シ「マール」諸島ヲ
 リック」列島ハ「ヤルト」ヲ除キ敵ノ勢力ヲ範圍トナリ「ウジラ」見
 張所ハ連絡絶エタリ更ニ「メジエロ」ニハ艦隊基地ヲ整備シ時
 敵機動部隊碇泊スル他「クサイ」「ホナペ」ニ対スル空襲ハ本格
 化シ逐次「カリニ」方面ニ対スル攻襲ヲ準備中ニ在モノ、如夕下
 旬ニ至リ「トラック」ハ主トシテ晝間「ソロモン」方面ヨリ、夜間「ブ
 方面ヨリスル大型機ノ連日「ゲリラ」的「空襲」ヲ受クルニ至リ「メ
 バラオ」又敵機動部隊ノ空襲ヲ蒙ル「トラック」未嘗ノ敵ハ飛
 行場ヲ目標トシ時「焼夷彈」ヲ使用スル他「新」瞬「発信管」附爆
 彈ヲ使用シ消火其他ノ作業ヲ阻止セントスルモノ、如シ

我軍ノ状況

「マール」方面各地ハ敵機及敵潜水艦ノ跳梁ニ因リ神給困難ナルモ依然
 熾烈ナル砲撃下ニモ奮戦シツアリ下旬「ホナペ」及「モートロック」ニ零
 戦八機ヲ進出作戦セリ

陸軍部隊ノ状況

- (イ)「トラック」四季諸島ニ於ケル海岸要莫、特火莫ハ完成セリ
- (ロ)「新」九乗船部隊ハ「サイパン」ヨリ、途中遭難セルモ人員兵器ノ大
 部ハ收容五日「トラック」ハ上陸ヲ完了セリ

第五十二師團ハ十日附ヲ以テ第三十一軍ニ編入セラレ南洋第三師團

第四「モートロック」支隊ヲ併セ「トラック」集團ヲ編成セラル

南洋第三派遣隊ハ二十三日「エンダービー」ニ第八派遣隊ハ二十四日

「トラック」ニ何レモ到着配備ニ就ケリ

(三) 作戦指導

(1) 作戦命令ノ要綱

機密東「カロリン」方面防備部隊命令作第三號機密「カロリン」方
面防備部隊命令作第二號及第九號第一號機密東「カロリン」
方面防備部隊命令作第二號及四號乃至第九號

四 行動補給及施設ニ関スル計畫ニ指導

(1) 二十八日「ビンゲラップ」見張所ノ撤退ヲ了ス

(2) 大發ニ依ル「エンダービー」補給実施

(3) ホナ「ジャプテック」島及「パリ」島ノ八釐手射砲(計八)ヲ撤去
シ本島ノ上陸阻止ニ裝備ヲ充テ

(4) 「トラック」夏島守備ニ関スル陸海軍協定ヲ發令

(5) 「トラック」西水道機雷神強敷設ヲ發令

1874

第四根據地隊司令部戰時日誌

聯合艦隊第四艦隊
第四根據地隊司令部

海軍功績調査部長殿
根機密第九八〇號
自昭和十九年四月一日
至昭和十九年四月三十日

七月三十一日



1876

目次
一、経過
二、人員現狀
三、令達報告
四、戦経過概要

終

1877

経過

(一) 敵

(4) 一般情

「ウルマ」方面ハ「エンパール」「シルニア」街道遮断ニ成功シ「インパール」盆地ノ敵ハ空中補給ニ依存スル、他ナク南支方面ニ於テハ在支米空軍基地ヲ爆撃敵ノ蠢動ヲ封ジツアリ、南西方面北方方面特ニ変化ナシ、南東方面ニ於テハ「ライジー」方面ニ在リシ敵航空指揮官ハ「アドミラルティ」ニ進出セルモノ、如ク敵側放送ニ依レバ一日「ニゴ」「カニエト」諸島ニ日ニハ「ラハフチオ」諸島敵手ニ陥チ「カビエン」北方ヨリ「アドミラルティ」方面ニ六敵機動部隊一部蠢動シアリ「ラバール」ノ空襲ハ愈々熾烈ニ化シ地上諸施設ハ壊滅セラレ敵ノ目標ハ逐次主点ヲ防空砲台等ニ移シツアリ

「ユーギニア」方面ニ於テハ二十二日遽ニ「ホルランヂア」「アイタベ」ニ上陸ヲ開始シ後統部隊増援中ナリ

(2) 南洋方面

敵「アラン」基地強化ト共ニ「マーシャル」諸島ハ困リ今ヤ東「カギン」方面就中「ホナ」「トラック」ハ連日連夜ノ空襲ヲ受クルニ至リ「メレヨン」

(一)

又空襲ニ依ル損害大ナリ「ハオ」強襲ノ敵機動部隊ハ其地ニ
帰還セルモノ如ク我潜水艇ハ二十二日「メジエロ」ニ敵空母十一戦艦
三其ノ他碇泊シアルヲ發見セル處二十九日「ハ」トラック「ハ」ニ五度四五
〇泓ニ二群ノ敵機動部隊出現 三十日「ト」トラック「ハ」敵機動
部隊ノ大擧空襲ヲ蒙レリ既ニ「マ」シヤル「東」カリン「ハ」方面ハ敵航空
勢力縦横ニ進出スル状況トナリ敵ノ反攻ハ積極的ニシテ全般ニ於テ
愈々兵力ヲ増加南東方面中部太平洋方面共ニ敵進攻ノ微アリ

(二) 我軍ノ状況

今「マ」シヤル各地ハモトヨリ「カ」リン「ハ」方面へノ補給ハ敵航空勢力下困難

ニ陥リタルモ士氣旺盛熾烈ナル砲爆雲ノ下克ク奮戦シツアリ

十四日夜間「ハ」ブラウン「ハ」對シ陸攻几機ヲ以テ之ヲ攻撃炎上

三ヶ所ノ撃墜一機ノ戦果ヲ擧ゲタモ我方又二機自爆セリ

各基地航空部隊ハ全力ヲ擧ゲ敵ヲ邀撃スルト共ニ西部「シ」

「ガ」ニア「ハ」ホルラン「ガ」ア「ハ」「ア」イ「バ」方面ノ敵部隊ノ攻撃ニ努メタリ

陸軍部隊ノ状況

南洋第ニ次遣隊及第七次遣隊ハ十二日「メ」レオン「ハ」到着セリ

南洋第ニ次遣隊高射砲第ニ五聯隊ノ一中隊及獨立工兵第

九聯隊(一中隊欠)ハ十六日「ト」ラック「ハ」到着セリ

(3) 第五十二師團、トラック方面ニ於ル展開ハ略完了ス
三作戰指導

(4) 作戰命令、要綱

機密四根命令、特第三四四號

機密東カカリニ方面防備部隊命令、特第三三號乃至第一六號

(4) 行動補給及施設ニ関スル計画及指導

(1) 野積爆彈、分散発令

(2) 敵攻略部隊、未攻ニ際スル處ニ戡闘要領発令

(3) 大砲及機帆船ニ依ル「ナモテツク」モ「トロツク」補給具是迄

(終)

我軍東方口リニ方面防備部隊命令作第一四號附表

兵力部署

部隊名	指揮官	兵力	主要任務
航空部隊	第九〇二海軍 航空隊司令	第九〇二海軍航空隊	一 對潛掃蕩 二 海上護衛
第五十七		第五十七 駆潜隊	一 哨戒 二 對潛掃蕩 三 海上護衛
部 隊	駆潜隊司令	昭南丸 第八昭南丸 第七昭和丸 第八昭和丸 民星丸	四 海上輸送
掃 蕩	第三十二	第三十二 駆潜隊 第三十號 駆潜艇 望天丸 第三十一號 駆潜艇	一 對潛掃蕩
部 隊	第四十一	第四十一 警備隊 特設見張所 グリニケ、モモチック、 オロルック、ムリロ 第四防空幹部隊 特設防空隊 (六、四三、四六、八十一、八十四、 八十五、八十六) 船舶防空隊 (五〇、五二、五三) 特設防衛所 (子島、南島) 特設掃海艇二羽丸、第三回 號能代丸 特設敷設艇一金城丸 敷設特務艇二第號敷設艇	擔任區域警備 及 成防備 同方面ニ未 スル敵船舶航 空機ノ担止撃 攘 擔任區域於 於 他部隊 作戦協力 三 海上交通 保護 補給
警備部隊	地 警備隊司令		
トミック			

ナウル	警備部隊 ×レヨン	警備部隊	ボ 十 ペ
令		司	
第六十	警備隊司令 第十四	警備隊司令 第十四十二	野戰高射砲隊 第二大隊長
第六十	特設見張所 ×レヨン	特設見張所 （第一春日丸 白鷗丸） 特設監視艇二 （第二春日丸 白鷗丸） （第一春日丸 白鷗丸）	野戰高射砲 第二大隊 第十四十二警備隊（六個連隊） 八挺高射砲四門 大島島 （派遣中） 特設見張所 （第一春日丸 白鷗丸） 特設監視艇二 （第二春日丸 白鷗丸） 掃海特務艇（三五号 六号） 特設監視艇五 第二芙蓉丸 第一金寶 丸 幸生丸 第五和丸 第一 三號寶幸丸

1883

警戒隊 トミック港内		備部隊		一 シヤン登
官				
カ 力 コ リ ン 丸	派 遣 隊 長 オ ロ ン 海 軍	派 遣 隊 長 エ ン タ ー 海 軍	派 遣 隊 長 モ ー ト ソ ク 海 軍	港 務 部 長 第 四
	特 設 見 張 所 オ ロ ン 海 軍 派 遣 隊	特 設 見 張 所 エ ン タ ー 海 軍 派 遣 隊	特 設 見 張 所 モ ー ト ソ ク 海 軍 派 遣 隊	第 一 港 務 部 第 二 神 第 五 吳
海 上 輸 送		二 同 シ	警 備 部 隊	一 港 内 警 戒 二 港 務 救 難

警備隊司令

道隊
第一特別根據地隊
横 類 二特(大一個中隊)
中隊 大丸丸